

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472700590		
法人名	(株)ドリームライト		
事業所名	グループホームドリームライトひかりの里 ユニット:ひだまり		
所在地	富谷市成田8丁目4-10		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設暮らしであっても、この地域でその人らしく、これかれも生活が送れるようにその人に寄り添い、その人から人生を学び、出会った絆をこの地域で大切にされるように努めて運営しています。午前中は軽体操を行っており残存機能の維持 筋力低下予防 笑いの多い時間を提供しています。午後のレクでは塗り絵・習字・計算・漢字等の活動を行っています。季節に応じた行事計画をしており又、外部からのボランティア等の協力もあります。看護師の配置と相田内科との医師連携にてターミナル体制の充実。平成29年度は4名の「看取り」をチームで行う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は静かな住宅街の一角にあり、敷地内に同法人のデイサービスとショートステイが隣接し連携している。職員は、理念である「受容」と「絆」を基に、安全性や礼儀を大切に、サービスの向上や効率を心がけ、利用者一人ひとりの思いを受け止めながら、笑顔でケアに当たるよう努めている。また、職員間のチームワークを大切に、より良いケアに向けて取り組んでいる。利用者が、自分であることを進んで行い、役割を果たし、日々の活動、趣味など、生き甲斐が持てるよう支援している。利用者ごとに担当職員が決まっており、アセスメントを行って介護計画に意見を反映している。管理者は、職員の家庭状況を把握し、職員が働きやすい環境作りに努めると共に、職員の質の向上や資格取得に向け勤務態勢の便宜を図るなど支援している。医療連携が取れており、看取り指針が整備されていることが家族の安心に繋がっている。新年度は看護師の増員を図ることにより、健康管理やケアの向上を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHドリームライトひかりの里 ）「 ユニット名 ひだまり 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ありのままを受容し自然や地域社会との絆を大切にする介護理念です。会議、ミーティング等で理念を確認し合い、ケアの振り返りをして理念を共有しています。「ミッション」をガイドとして理念へ向けて取り組んでいる。	「受容」「絆」を理念に掲げ、ありのままを「受容」し、「絆」を大切にしている。職員全員でブレインストーミングの方法を活用し、年度ごとに理念を具体化した目標を設定し、会議や朝の会で確認している。行動指針として安全性、礼儀、サービス、効率を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で催される「夏祭り」「敬老会」等に参加ご案内を頂き、地域の一員として交流をしている成田中学校の防災学習への協力毎年1回実施	町内会に加入し、市の広報紙などが届いている。中学校の防災学習に協力したり、高齢者や介護サービスの理解に繋がる体験学習を受け入れている。公民館で行われている民謡や市の夏祭りに参加する利用者もいる。傾聴ボランティアや歌・尺八などのボランティアの訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緊急支援としてのお泊りを提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践上での報告と要望などについてお話しさせていただき、ご家族代表、町内会会長、地域民生委員、地域包括支援センター職員等の方々にご意見や地域情報を頂戴しながらサービス提供に反映できるように工夫し、インフォーマルな社会資源を提供している。	市職員、家族代表、町内会会長、民生委員、PTA会長、フードバンク職員、社長、施設長の参加で隔月開催している。入居状況や行事、事故などの報告を行い、意見交換している。出された意見要望や提供された情報をサービスや事業運営に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	デイサービス、ショートステイを併設運営しているため、市担当部署や地域包括支援センターとの連絡体制を密にしております。また、当事業所への入所希望者の情報などについても提供していただいている等の協力関係を築いております。	市からは認知症の理解、権利擁護などの研修案内がある。また、入居状況などの連絡をしている。施設長が、市の介護保険計画作成委員に就任するなど、市との連携が図られている。外部評価結果は運営推進会議で報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安心第一にし利用者様の各々の居場所の確保フロアにアレンジ実施した。両フロアの開放的利用を考慮してスペース確保した。	防犯と安全性を考慮して常時施錠し、来訪時にはチャイムで対応している。外出傾向を把握し、ドライブや買い物で気分転換をするなど、支援している。交番に写真入り(家族の同意を得ている)の情報紙を届けている。転倒防止のため、離床センサーを使用している利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全第一に、出来る限りチームで取り組むカンファレンスを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講師を招いて全体研修を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込の施設見学時も含め、契約に際しては「重要事項説明書」の説明にとどまらず、面談での不安や疑問、要望などを尋ねて、十分に理解、納得していただけるように心がけて実践しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来所時や電話での運営に対するご意見は管理者に上意し、日常の運営に役立てる様にユニット会議や送りにも反映しています。	家族の来訪時や電話で意見要望を聞いている。出された意見要望は、ユニット会議で検討したり、申し送りの際などに常に職員間で共有し反映できるように努めている。家族会が5月と11月の年2回開催され、入退去状況や利用者の状態、地域交流やターミナル対応などの話し合いを行っている。新しい職員を紹介して欲しいとの要望があり、情報紙に掲載し紹介した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度、会議を設けて、随時職員の意見・提案を反映させています。年に2回面談実施 社長との面談年2回あり	社長面談と施設長面談が年2回ずつ行われ、職員の家庭状況を考慮し、シフトや勤務上の要望などに対応している。毎月のスタッフ会議や全体会議で意見を話すことができる。研修や資格取得に向けて、シフト変更や資金面での支援がある。	職員のケアの更なる質の向上を目指して、内部・外部研修を受ける機会を拡充することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課測定の面談をおこない、賞与査定制度を実施しています。社長との面談を年2回実施「ミッション」の利用。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士受験支援制度や初任者研修制度を活用しています。 随時、中堅職員から他職員への介護スキルの教育を促しております。 「ミッション」の利用		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会勉強会等に参加して、他施設の取り組み等の情報を提供していただきながら、同業者との交流の機会を持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートや生活歴や嗜好などを記録する「人生のリュックサック」を豊かにして、さらに要望などを聞かせていただきながら早期の信頼関係が築かれるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な傾聴を行うことによって、家族のニーズやよりよい関係づくりに努めております。又随時、意見を受け入れる様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に本人・家族様の意見を尊重し、本人が納得した生活を送れるようサービス提供に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話等のふれあいを通して、生活を共にする人としての自覚を持ち、より良い生活を送っていただけるよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との会話を通して信頼関係を大切にし、本人と家族が、お互いにより生活ができるように努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、ご本人の希望にて外出、外泊も実施させて頂いており自宅で過ごせる支援に努めている	家族、友人や近所の人などが訪問しやすいよう配慮している。家族と一緒に墓参りや馴染みの理髪店、買い物などに出かけられるように支援している。利用者一人ひとりの希望にそった外出も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握しながら、食事や活動を大切にしており、孤立しないようにスタッフ仲介にて交流の視野を広くし、利用者様同士での支え合いも見られております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があった際や・必要があると判断される場合には、支援するよう努めております。入院中の面会フォロー。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本、本人の意向を第一として支援しております。実現困難な際でも、なるべく希望に添えるような代替えの支援を提案していけるよう努めております。夕方には晩酌をされる方もおり楽しみの時間を提供しています。	職員は、朝の会や入浴時、落ち着いた時間に、会話の中で意向の把握に努め、本人の意向を第一にした支援を行っている。入居時に「人生のリュックサック」と題し、これまでの衣・食・住についての生活歴を記入してもらい、その情報を活用し支援している。利用者の価値観を大切に、趣味や嗜好を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様、家族や、事業所からの情報収集に努め、御本人様の背景把握を実践しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活チェック表を使用しながら1日の過ごし方、体調変化時の記載にてご本人様の現状を把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の現在の課題をピックアップし御本人様やご家族様の要望を取り入れ、職員で話し合いながら介護計画作成にフィードバック作成しています。毎月1ヶ月の施設生活状況をご家族様にお渡ししています。	利用者ごとに担当職員がおり、家族・医師・薬剤師などの意見を反映しアセスメントを行ない、介護計画に生かしている。介護計画は、管理者と計画作成担当者が作成し、見直しは基本年2回、状態の変化に応じ都度行い、家族には来訪時や郵送にて同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の徹底と日々の様子を連絡帳に書き込むことによって、職員だけでなく家族への情報共有も計りながら、介護計画の見直し、ケアの実践に取り組んでおります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス、ショートステイの併設により、行事の共有や、柔軟なサービス提供に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をスムーズに活用できるよう把握し、支援に努めております。施設そのものを緊急お泊り支援として提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様と、本人の意見を尊重して受診先を選んでおります。受診先と、信頼関係を気づけるように努め、適切な医療を受けられる環境づくりに努めております。看護師の配置と嘱託医の配置(相田内科)	協力医療機関の訪問診療があり、診療、治療、薬の処方、療養上の相談、指導や検査結果の報告などがある。通院は家族付き添いが基本だが、職員が同行することも多く、家族に結果を報告し、利用者の状態について情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	密接にバイタルの変化・皮膚等の日々の状態を報告するように努め、適切な受診・看護が受けられるよう徹底しております。看護師の配置		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が様子確認とともに、病院関係者との情報交換をしております。また、安心して退院していただけるように病院関係者、家族、職員が協働して、その時のための準備をするように関係づくりをおこなっています。入院中のフォロー		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医との連携を密に行い体調変化時やターミナルとして時期を迎えた際には、個別カンファレンスを開き、今後の方針を、家族・かかりつけ医の意見を取り入れながら、最終期をチームで支援に取り組んでいる看護師と医師との配置で実施	入居時に指針を説明し、家族から意向を聞いた上で、同意を得ている。かかりつけ医と連携し、ターミナルの時期を迎えた時には、個別カンファレンスを開き今後の方針を決めている。訪問看護師と契約をしている利用者もいる。看取りの実績があり、研修も行っている。	看護師増員し、日々の健康管理とターミナルケアのさらなる充実を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	災害時のマニュアルがあり、避難訓練も年2回行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	成田中学校の地域防災学習への防災訓練に参加し、また、地域推進委員会で防災対策について情報を共有するとともに協力を要請しています。また、夜間時の想定訓練を自主的におこない、地域協力体制に位置づけられるようにしております。	中学校の「地域との防災学習」へ参加している。避難訓練は、消防署立ち会いの基、夜間想定訓練を含めて年2回実施している。感染症対策として、手洗い・うがい・マスク・アルコール消毒を励行している。設備点検は業者が年2回実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの高齢者としての人格を尊重し、一人ひとりの手順や価値観の違いを理解するとともに、トイレ誘導への声掛けやお手伝いの依頼についても意思を尊重するように心がけて対応しています。	呼び名は、「〇〇さん」と呼んでいる。明るく丁寧な言葉遣いを心がけ朝礼などで確認している。排泄介助は、さりげなく行いプライバシーに配慮している。利用者を尊重し、平等に接するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃より、利用者様に希望がないかどうか問いかけるよう心掛け、決定の際には必ず本人の意見に耳を傾ける事として職員に周知しております。スタッフの担当制をして個別対応実施		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、利用者様主体で生活を送って頂ける支援のに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	過去の情報をもとに、個性を尊重した整容や、オシャレを楽しんでいただけるように配慮しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	随時、食事に関する意見を取り入れ、よりよい食環境が整うよう配慮しております。準備、片付け等、皆さま率先して参加されることが多く、やりがいをもってして行われている様子が見受けられます。委託の連携で、カロリー栄養、体調、職員との関係に献立をつくる	献立は業者に委託している。月1回栄養士との意見交換がある。利用者の希望食を献立にプラスして提供している。利用者は配膳や片付けなどの役割をもち、職員に見守られながら行っている。家庭的な雰囲気になるよう配慮し、職員も一緒に会話をしながら食事している。誕生日、ひな祭りなどの行事食は利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日データをとり、食環境の変化に対応できるよう努めております。摂取不良が続く時には主治医の意見を仰ぎながら、健康への配慮も徹底しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施しております。口臭や歯ぐきからの出血があった方が改善され清潔保持が出来ていると思われれます。必要に応じて歯科の往診		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個別の排泄パターンを把握に努め、様子観察をしながらトイレでの排泄を支援しています。チェック表の利用	排泄チェック表で一人ひとりの状態を把握し、誘導などの支援をしている。便秘対策として牛乳やヨーグルト、お茶などを取り入れ、必要に応じて医師から処方された下剤を服用している。状態に合わせ、リハパン、パット、オムツなどを使用し、日中はトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便周期を把握し水分摂取や腹部のマッサージ、歩行運動にて便秘の予防に努めています。チェック表の利用		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在、皆様の希望に沿った入浴サービスを実施できております。足浴やミスト浴も可能	基本は週2回、午前中の中の入浴だが、利用者の希望や体調を考慮して支援している。湯は都度、替えて対応している。拒否の人には、無理強いをせず、声かけの工夫や同性介助で対応している。隣接する同法人の施設に、リフト浴や特別浴に対応した浴槽が設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	現在、皆様に適切な休憩、安眠を提供できております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医からの処方薬の指示をいただきながら、また、「お薬情報」により、はたらきと副作用等について理解し、誤服用のないように確認して支援をしています。アイビー調剤との連携		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在、ドライブ、歌唱、ゲーム、軽体操、将棋等さまざまなレクリエーション活動を用意して、個々が楽しめる活動参加や季節に沿った行事を取り組みながら提供に努めております。食後の後片付け、洗濯畳。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人より、散歩や、買い物希望があった際には出来る限りの対応をしております。現在、家族の協力も手厚く、外出の希望は、おむね達成できております。	日常的に、庭や畑、近所の公園へ散歩に出かけている。車椅子対応のリフト車を活用し、季節ごとに花見や紅葉狩りなどのドライブで、気分転換を図っている。一人ひとりの希望に合わせて買い物に出かけることもある。家族と一緒に墓参り、美容室、食事、病院などに出かける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持ち、家族の理解のもとで、ご本人保管をされている方もいます。買い物を楽みたい方は自力、同行の方法でおこなえるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話での会話ができるように促して、実施しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには折々の季節飾りをおこない、イベントやレク等でのスナップ写真集を飾りつけて、利用者同士で会話広がるように工夫しています。季節の花を生ける。	リビングは南に面し明るく開放的で、掃除が行き届いている。温・湿度は快適に過ごせるよう管理されている。大きなテレビやカラオケもある。リビングには、利用者が作成した季節の作品や写真が飾られ、利用者同士の会話広がる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団と個々が、気持ちよく生活できる空間作りをしております。利用者間の組み合わせを考慮し安心できる場所を配慮する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた場所と、なるべく違和感のないように努め、入所される際には使い慣れたものの持参や本人が居心地の良い場所であるよう環境作りを徹底しております。	居室にはエアコン・電動ベッド・洗面台・机・クローゼット、ナースコール・スプリンクラーが設置され、職員が温・湿度を管理している。清掃は専属の職員が毎日行い、担当職員も都度行っている。利用者は、使い慣れた馴染みの物を持参し、好みの部屋にして、心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全ての利用者のADLに対して、危険のないよう配慮に努めています。バリアフリー。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472700590		
法人名	(株)ドリームライト		
事業所名	グループホームドリームライトひかりの里 ユニット:こもれび		
所在地	富谷市成田8丁目4-10		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設暮らしであっても、この地域でその人らしく、これかれも生活が送れるようにその人に寄り添い、その人から人生を学び、出会った絆をこの地域で大切にされるように努めて運営しています。午前中は軽体操を行っており残存機能の維持 筋力低下予防 笑いの多い時間を提供しています。午後のレクでは塗り絵・習字・計算・漢字等の活動を行っています。季節に応じた行事計画をしており又、外部からのボランティア等の協力もあります。看護師の配置と相田内科との医師連携にてターミナル体制の充実。平成29年度は4名の「看取り」をチームで行う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は静かな住宅街の一角にあり、敷地内に同法人のデイサービスとショートステイが隣接し連携している。職員は、理念である「受容」と「絆」を基に、安全性や礼儀を大切に、サービスの向上や効率を心がけ、利用者一人ひとりの思いを受け止めながら、笑顔でケアに当たるよう努めている。また、職員間のチームワークを大切に、より良いケアに向けて取り組んでいる。利用者が、自分で行えることを進んで行い、役割を果たし、日々の活動、趣味など、生き甲斐が持てるよう支援している。利用者ごとに担当職員が決まっており、アセスメントを行って介護計画に意見を反映している。管理者は、職員の家庭状況を把握し、職員が働きやすい環境作りに努めると共に、職員の質の向上や資格取得に向け勤務態勢の便宜を図るなど支援している。医療連携が取れており、看取り指針が整備されていることが家族の安心に繋がっている。新年度は看護師の増員を図ることにより、健康管理やケアの向上を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHドリームライトひかりの里）「ユニット名 こもれび」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ありのままを受容し自然や地域社会との絆を大切にしている介護理念です。会議、ミーティング等で理念を確認し合い、ケアの振り返りをして理念を共有しています。「ミッション」をガイドとして理念へ向けて取り組んでいる。	「受容」「絆」を理念に掲げ、ありのままを「受容」し、「絆」を大切にしている支援を行っている。職員全員でブレインストーミングの方法を活用し、年度ごとに理念を具体化した目標を設定し、会議や朝の会で確認している。行動指針として安全性、礼儀、サービス、効率を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域で催される「夏祭り」「敬老会」等に参加の案内をいただき、地域の一人として交流をしております。成田中学校の防災学習への協力。 毎年1回実施	町内会に加入し、市の広報紙などが届いている。中学校の防災学習に協力したり、高齢者や介護サービスの理解に繋がる体験学習を受け入れている。公民館で行われている民謡や市の夏祭りに参加する利用者もいる。傾聴ボランティアや歌・尺八などのボランティアの訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緊急支援としてのお泊り支援を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践上での報告と要望などについてお話しさせていただき、ご家族代表、町内会会長、地域民生委員、地域包括支援センター職員等の方々にご意見や地域情報を頂戴しながらサービス提供に反映できるように工夫し、インフォーマルな社会資源を提供している。	市職員、家族代表、町内会会長、民生委員、PTA会長、フードバンク職員、社長、施設長の参加で隔月開催している。入居状況や行事、事故などの報告を行い、意見交換している。出された意見要望や提供された情報をサービスや事業運営に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	デイサービス、ショートステイを併設運営しているため、市担当部署や地域包括支援センターとの連絡体制を密にしております。また、当事業所への入所希望者の情報などについても提供していただいている等の協力関係を築いております。	市からは認知症の理解、権利擁護などの研修案内がある。また、入居状況などの連絡をしている。施設長が、市の介護保険計画作成委員に就任するなど、市との連携が図られている。外部評価結果は運営推進会議で報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安心第一にし利用者様の各々の居場所の確保 フロアにアレンジ実施した。両フロアの開放的利用を考慮してスペース確保した。	防犯と安全性を考慮して常時施錠し、来訪時にはチャイムで対応している。外出傾向を把握し、ドライブや買い物で気分転換をするなど、支援している。交番に写真入り(家族の同意を得ている)の情報紙を届けている。転倒防止のため、離床センサーを使用している利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全第一に、出来る限りチームで取り組むカンファを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講師を招いて全体研修を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込みの施設見学時も含めて、契約に際しては「重要事項説明書」の説明にとどまらず、面談での不安や疑問、要望などを尋ねて十分に理解、納得して頂ける様に心がけて実践しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来所時や電話での運営に対するご意見は管理者に上意し、日常の運営に役立てる様にユニット会議や送りにも反映しています。	家族の来訪時や電話で意見要望を聞いている。出された意見要望は、ユニット会議で検討したり、申し送りの際などに常に職員間で共有し反映できるように努めている。家族会が5月と11月の年2回開催され、入退去状況や利用者の状態、地域交流やターミナル対応などの話し合いを行っている。新しい職員を紹介して欲しいとの要望があり、情報紙に掲載し紹介した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度、会議を設けて、随時職員の意見・提案を反映させています。年に2回面談実施 社長との面談年2回あり	社長面談と施設長面談が年2回ずつ行われ、職員の家庭状況を考慮し、シフトや勤務上の要望などに対応している。毎月のスタッフ会議や全体会議で意見を話すことができる。研修や資格取得に向けて、シフト変更や資金面での支援がある。	職員のケアの更なる質の向上を目指して、内部・外部研修を受ける機会を拡充することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課測定の面談をおこない、賞与査定制度を実施しています。社長との面談を 年2回実施「ミッション」の利用。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士受験支援制度や初任者研修制度を活用しています。随時、中堅職員から他職員への介護スキルの教育を促しております。 「ミッション」の利用		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会勉強会等に参加して、他施設の取り組み等の情報を提供していただきながら、同業者との交流の機会を持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートや生活歴や嗜好などを記録する「人生のリュックサック」を豊かにして、さらに要望などを聞かせていただきながら早期の信頼関係が築かれるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な傾聴を行うことによって、家族のニーズやよりよい関係づくりに努めております。又随時、意見を受け入れる様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に本人・家族様の意見を尊重し、本人が納得した生活を送れるようサービス提供に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話等のふれあいを通して、生活を共にする人としての自覚を持ち、より良い生活を送っていただけるよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との会話を通して信頼関係を大切にし、本人と家族が、お互いによい生活ができるように努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、ご本人の希望にて外出、外泊も実施させて頂いており自宅で過ごせる支援に努めている。	家族、友人や近所の人などが訪問しやすいよう配慮している。家族と一緒に墓参りや馴染みの理髪店、買い物などに出かけられるように支援している。利用者一人ひとりの希望にそった外出も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握しながら、食事や活動を大切にしており、孤立しないようにスタッフ仲介にて交流の視野を広くし、利用者様同士での支え合いも見られております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があった際や・必要があると判断される場合には、支援するよう努めております。入院中の面会フォロー。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本、本人の意向を第一として支援しております。実現困難な際でも、なるべく希望に添えるような代替えの支援を提案していけるよう努めております。夕方には晩酌をされる方もおり楽しみの時間を提供しています。	職員は、朝の会や入浴時、落ち着いた時間に、会話の中で意向の把握に努め、本人の意向を第一にした支援を行っている。入居時に「人生のリュックサック」と題し、これまでの衣・食・住についての生活歴を記入してもらい、その情報を活用し支援している。利用者の価値観を大切に、趣味や嗜好を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様、家族や、事業所からの情報収集に努め、御本人様の背景把握を実践しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活チェック表を使用しながら1日の過ごし方、体調変化時の記載にてご本人様の現状を把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の現在の課題をピックアップし御本人様やご家族様の要望を取り入れ、職員で話し合いながら介護計画作成にフィードバック作成しています。毎月1ヶ月の施設生活状況をご家族様にお渡ししています。	利用者ごとに担当職員がおり、家族・医師・薬剤師などの意見を反映しアセスメントを行ない、介護計画に生かしている。介護計画は、管理者と計画作成担当者が作成し、見直しは基本年2回、状態の変化に応じ都度行い、家族には来訪時や郵送にて同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の徹底と日々の様子を連絡帳に書き込むことによって、職員だけでなく家族への情報共有も計りながら、介護計画の見直し、ケアの実践に取り組んでおります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス、ショートステイの併設により、行事の共有や、柔軟なサービス提供に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をスムーズに活用できるよう把握し、支援に努めております。施設そのものを緊急お泊り支援として提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様と、本人の意見を尊重して受診先を選んでおります。受診先と、信頼関係を気づけるように努め、適切な医療を受けられる環境づくりに努めております。看護師の配置と嘱託医の配置(相田内科)	協力医療機関の訪問診療があり、診療、治療、薬の処方、療養上の相談、指導や検査結果の報告などがある。通院は家族付き添いが基本だが、職員が同行することも多く、家族に結果を報告し、利用者の状態について情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	密接にバイタルの変化・皮膚等の日々の状態を報告するように努め、適切な受診・看護が受けられるよう徹底しております。看護師の配置		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が様子確認とともに、病院関係者との情報交換をしております。また、安心して退院していただけるように病院関係者、家族、職員が協働して、その時のための準備をするように関係づくりをおこなっています。入院中のフォロー		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医との連携を密に行い体調変化時やターミナルとして時期を迎えた際には、個別カンファレンスを開き、今後の方針を、家族・かかりつけ医の意見を取り入れながら、最終期をチームで支援に取り組んでいる。看護師と医師との配置で実施	入居時に指針を説明し、家族から意向を聞いた上で、同意を得ている。かかりつけ医と連携し、ターミナルの時期を迎えた時には、個別カンファレンスを開き今後の方針を決めている。訪問看護師と契約をしている利用者もいる。看取りの実績があり、研修も行っている。	看護師増員し、日々の健康管理とターミナルケアのさらなる充実を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	災害時のマニュアルがあり、避難訓練も年2回行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	成田中学校の地域防災学習への防災訓練に参加し、また、地域推進委員会で防災対策について情報を共有するとともに協力を要請しています。また、夜間時の想定訓練を自主的におこない、地域協力体制に位置づけられるようにしております。	中学校の「地域との防災学習」へ参加している。避難訓練は、消防署立ち会いの基、夜間想定訓練を含めて年2回実施している。感染症対策として、手洗い・うがい・マスク・アルコール消毒を励行している。設備点検は業者が年2回実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの高齢者としての人格を尊重し、一人ひとりの手順や価値観の違いを理解するとともに、トイレ誘導への声掛けやお手伝いの依頼についても意思を尊重するように心がけて対応しています。	呼び名は、「〇〇さん」と呼んでいる。明るく丁寧な言葉遣いを心がけ朝礼などで確認している。排泄介助は、さりげなく行いプライバシーに配慮している。利用者を尊重し、平等に接するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃より、利用者様に希望がないかどうか問いかけるよう心掛け、決定の際には必ず本人の意見に耳を傾ける事として職員に周知しております。スタッフの担当制をして個別対応実施		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、利用者様主体で生活を送って頂ける支援のに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	過去の情報をもとに、個性を尊重した整容や、オシャレを楽しんでいただけるように配慮しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	随時、食事に関する意見を取り入れ、よりよい食環境が整うよう配慮しております。準備、片付け等、皆さま率先して参加されることが多く、やりがいをもって行われている様子が見受けられます。委託の連携で、カロリー栄養、体調、職員との関係に献立をつくる。	献立は業者に委託している。月1回栄養士との意見交換がある。利用者の希望食を献立にプラスして提供している。利用者は配膳や片付けなどの役割をもち、職員に見守られながら行っている。家庭的な雰囲気になるよう配慮し、職員も一緒に会話をしながら食事している。誕生日、ひな祭りなどの行事食は利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日データをとり、食環境の変化に対応できるよう努めております。摂取不良が続く時には主治医の意見を仰ぎながら、健康への配慮も徹底しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施しております。口臭や歯ぐきからの出血があった方が改善され清潔保持が出来ていると思われれます。必要に応じて歯科の往診		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個別の排泄パターンを把握に努め、様子観察をしながらトイレでの排泄を支援しています。チェック表の利用	排泄チェック表で一人ひとりの状態を把握し、誘導などの支援をしている。便秘対策として牛乳やヨーグルト、お茶などを取り入れ、必要に応じて医師から処方された下剤を服用している。状態に合わせて、リハパン、パット、オムツなどを使用し、日中はトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便周期を把握し水分摂取や腹部のマッサージ、歩行運動にて便秘の予防に努めています。チェック表の利用		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在、皆様の希望に沿った入浴サービスを実施できております。足浴やミスト浴も可能	基本は週2回、午前中の中の入浴だが、利用者の希望や体調を考慮して支援している。湯は都度、替えて対応している。拒否の人には、無理強いをせず、声がけの工夫や同性介助で対応している。隣接する同法人の施設に、リフト浴や特別浴に対応した浴槽が設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	現在、皆様に適切な休憩、安眠を提供できております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医からの処方薬の指示をいただきながら、また、「お薬情報」により、はたらきと副作用等について理解し、誤服用のないように確認して支援をしています。アイビー調剤との連携		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在、ドライブ、歌唱、ゲーム、軽体操、将棋等さまざまなレクリエーション活動を用意して、個々が楽しめる活動参加や季節に沿った行事を取り組みながら提供に努めております。食後の後片付け、洗濯畳。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人より、散歩や、買い物の希望があった際には出来る限りの対応をしております。現在、家族の協力も手厚く、外出の希望は、おおむね達成できております。	日常的に、庭や畑、近所の公園へ散歩に出かけている。車椅子対応のリフト車を活用し、季節ごとに花見や紅葉狩りなどのドライブで、気分転換を図っている。一人ひとりの希望に合わせて買い物に出かけることもある。家族と一緒に墓参り、美容室、食事、病院などに出かける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持ち、家族の理解のもとで、ご本人保管をされている方もいます。買い物を楽みたい方は自力、同行の方法でおこなえるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話での会話ができるように促して、実施しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには折々の季節飾りをおこない、イベントやレク等でのスナップ写真集を飾りつけて、利用者同士で会話が増えるように工夫しています。季節の花を生ける。	リビングは南に面し明るく開放的で、掃除が行き届いている。温・湿度は快適に過ごせるよう管理されている。大きなテレビやカラオケもある。リビングには、利用者が作成した季節の作品や写真が飾られ、利用者同士の会話が増える工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団と個々が、気持ちよく生活できる空間作りをしております。利用者間の組み合わせを考慮し安心できる場所を配慮する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた場所と、なるべく違和感のないように努め、入所される際には使い慣れたものの持参や本人が居心地の良い場所であるよう環境作りを徹底しております。	居室にはエアコン・電動ベッド・洗面台・机・クローゼット、ナースコール・スプリンクラーが設置され、職員が温・湿度を管理している。清掃は専属の職員が毎日行い、担当職員も都度行っている。利用者は、使い慣れた馴染みの物を持参し、好みの部屋にして、心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全ての利用者のADLに対して、危険のないよう配慮に努めています。バリアフリー。		